# 石狩海岸におけるイソコモリグモの分布状況

藤原一暢[1]　松島肇[2]　岡田穣[3]

1 北海道大学農学部　2 北海道大学大学院農学研究院　3 専修大学北海道短期大学

## 背景

### イソコモリグモ（*Lycosa ishikariana*）とは？

- 砂浜に穴を掘るクモ
- 砂浜や海岸草原に生息
- 夜行性
- 大きさは成体で約20mm
- 巣穴直径は2mm～1cm程度
- 石狩で初めて標本が採集

### イソコモリグモの生息に必要な環境は激減

- 自然海岸の開発
- 海岸侵食

＋ オフロード車の乗り入れ

→ **砂浜海岸の減少**

**砂丘や海浜植物群落も破壊**

砂丘については保全が主張されるようになってきた

しかし、**砂浜の保全は主張されていない**

### イソコモリグモ分布状況の情報不足

- 環境省カテゴリーや府県で**絶滅危惧Ⅱ類**に指定
- 標本採集地である石狩での分布状況把握は重要
- 全国的な個体数の減少から石狩でも減少が予測

but

石狩における現在の分布状況は把握されていない

- 分布状況を将来比較することができない
- 情報不足により開発されてしまう可能性がある

## 目的

### ①現在の分布状況の把握

- 生息数の異なる地点があると推測
- 生活史による生息数の季節変化が推測

ただし、個体数を直接計測するのは困難なので

調査時期や場所毎の
- **巣穴の数・大きさ**の変化
- **巣穴の汀線からの斜距離**

を調査

### ②クモの生息に影響を与える要因の把握

海岸侵食やバギー車による撹乱の影響が懸念
- 侵食が激しい所では崖のような地形
- 砂丘では車が通った跡は風食凹地

地形を比較する事で長期的な撹乱の強さを比較可能

→ 各調査地で測量を行う

### ③イソコモリグモの分布を情報として蓄積

- イソコモリグモの分布に影響を与える開発・利用を抑制
- 将来、分布調査した際にクモの増減が把握可能

更に 減少時は北海道における絶滅危惧種へ指定

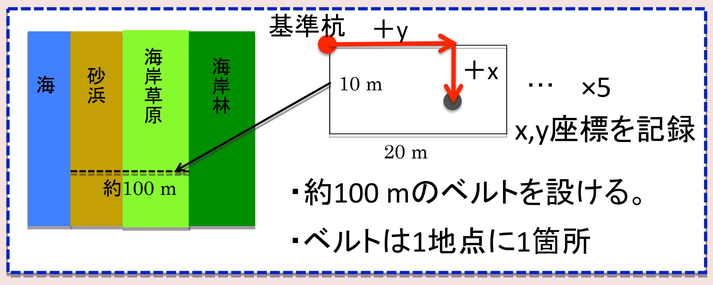
保護区指定地域の拡大

## 方法

### ①調査地

- 石狩川河口の両岸で調査
- 調査地の間隔は1.5～2.0km

### ②調査区の設定方法

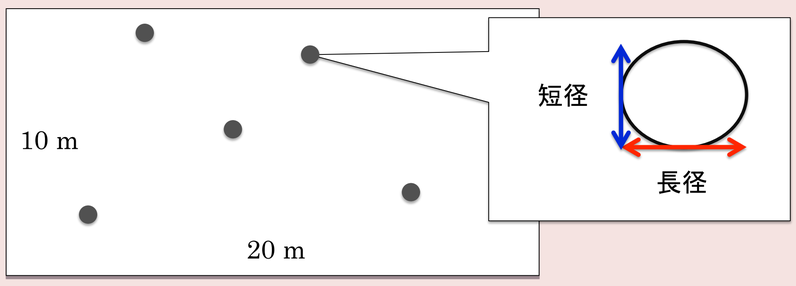



- 約100 mのベルトを設ける。
- ベルトは1地点に1箇所

巣穴のサンプリング

サンプリング後の様子

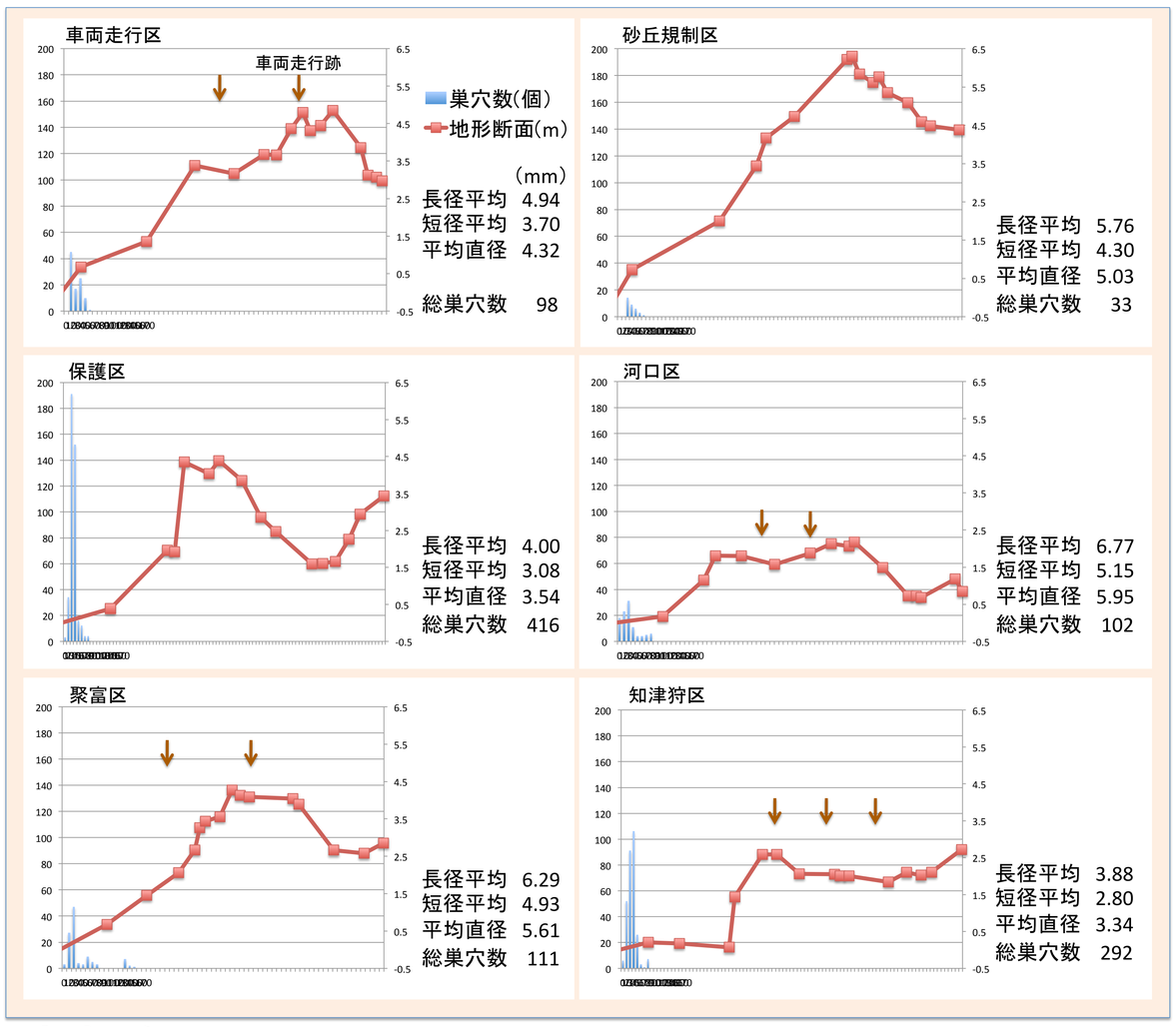
### ③巣穴直径の計測




- 長径と短径の平均値を平均直径とする
- ノギスを用いて計測

巣穴直径の計測の様子

## 結果




## 考察

調査結果から
**①全調査区で汀線から30mまでに巣穴が集中**
**②保護区と知津狩区の巣穴平均直径は小さい**
**③車両走行区で車両走行が、保護区・知津狩区で海岸侵食が著しい**
**④砂丘規制区の巣穴数が少ない**
事がわかった

①全調査区で汀線から30mまでに巣穴が集中

→ 分散直後の幼体は植物の生息していない
海岸線近くに巣が見られる(吉田,1976)

②保護区と知津狩区の巣穴平均直径は小さい

→ 平均直径の小さな巣穴が多い
i.e. 幼体数が多い

→ 石狩における**幼体分散時期が6～7月**であることが示唆

＋

③車両走行区の砂丘で車両走行が、保護区・知津狩区の海岸線付近で海岸侵食が著しい

→

④砂丘規制区の巣穴数が少ない

考えられる原因　Ⅰ.幼体の分散が起こらなかった or　Ⅱ.幼体分散後に個体数が急激に減少

→ 分散前後の**海岸侵食による撹乱**が原因として考えられる

## まとめ

イソコモリグモは6～7月にかけて海岸侵食等の影響を受けやすい分布特性を持つ事が分かった

イソコモリグモは海岸線近くという撹乱を受けやすい不安定な環境に生息するので
砂丘だけでなく**砂浜も積極的に保全**していく必要がある